

未来を担うひとづくりフォーラム 第3分科会 『とよかわっしょい!!』の発表

教育委員会だより

第4号

益田市教育委員会へ 平成28年2月17日発行



ライフキャリアで!

社会教育課長 大畑 伸幸

今、「キャリア教育」が注目されています。

その理由の一つは、社会の変化の加速化による、「仕事」の大きな変化です。

アメリカの研究では、現在の小学校新入生の65%は、将来、大学卒業後、今まだ存在していない仕事に就くとされており、一方、今存在している仕事の50%は2030年に自動化され、なくなるとされています。

このように、大きな変化が予測されている中で、「どんな仕事に就きたいか?」のみでは、子どもたちは未来を生き抜けません。自ら課題を解決しようとする力をつけていく必要があります。

そのためには、子どもを「お客さんから主役」にし、キャリア教育を「生徒のみの活動から多様で本気な大

人との協働活動」にシフトし、「やらせつばなしから引き出し、次につなげる」活動へと、質の転換を図らなくてはなりません。この取組は、学校だけでなく、地域全体でつくっていく必要があります。キャリア教育の新たな展開が始まったのです。

もう一つの理由は、「向都離村」から、地方創生の時代になったということでもあります。

仕事探しに偏ることで、益田で幸せに暮らすという選択肢が見えにくくなっていったのが、「ワークキャリア」中心のこれまでのキャリア教育でした。

そこで、益田で幸せに暮らしておられる方々の生き方、思いを子どもたちにつかりと伝えることに力を注ぐ必要があります。その結果、「どの職業に就きたい

か」だけから、「どう生きたいか」「今の目標は」「日々の充実は」：が子どもたちの判断材料に加わり、益田で暮らすことも子どもたちの人生の選択肢に加わるのではないのでしょうか。

これこそが「ライフキャリア」であり、今を肯定的にとらえ、目の前の壁をしっかりと乗り越えようとする生き方であるといえます。この力を子どもたちに具体的に付けていく営みこそが、益田のキャリア教育であり、益田市の地方創生につながるのではないのでしょうか。



目次

表紙(活動紹介).....	1
社会教育課長寄稿	
教育情報.....	2~3
カラフル給食タイム.....	4
寄付・寄贈のお礼	

平成28年度益田市児童生徒書初め展を開催しました

益田市内の小学校・中学校・高等学校・養護学校在学の児童生徒を対象とした書初め展が、1月28日から2月3日まで常盤町の益田市立図書館2階視聴覚室において開催しました。

今年で64回目を迎えた歴史あるこの書初め展は、次の3つのことを趣旨に毎年開催しています。

①各学年にふさわしい題材や、楷書や行書で書くことを通して、心を込めて文字を書くこととする気持ちを育てる。

②日本の文字文化の伝統を受け継ぎ、文字の正しき、美しさに関心を持つ心を育てる。

③益田市内の児童生徒の書初め作品を展示することで、保護者や地域の方々から書写の素晴らしさや児童生徒の頑張りを広く理解していただく。

今年度は、小学校1001点、中学校435点、高等学校133点、益田養護学校8点の合計1556点の応募出品がありました。

1月20日、益田市教育研究会書写部会の先生方による厳正な審査の結果、特別賞を含む各賞が決定されました。特別賞のうち、市長賞受賞者は次の皆さんです。

小学校1年生の部

益田小 須郷田風芽

小学校2年生の部

益田小 佐々木銀次郎

小学校3年生の部

吉田南小 大庭 慧人

小学校4年生の部

戸田小 近原 希歩

小学校5年生の部

戸田小 宇津川美幸

小学校6年生の部

安田小 田中 鈴奈

中学校1年生の部

鎌手中 佐々木玲緒

中学校2年生の部

東陽中 俵 直也

中学校3年生の部

益田東中 水津 杏摘

高等学校1年の部

翔陽高校 岩本華尚江

高等学校2年の部

益田高校 岩美さくら

高等学校3年の部

※該当なし



益田市教育委員会点検・評価報告

各市町村教育委員会は、毎年、その教育行政事務の管理・執行状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することとされています。

これに基づき、平成26年度に実施した教育行政事務及び事業のうち、主要なものについて自己評価を行いました。

い、益田市外部評価委員会において、その妥当性について評価いただき、報告書としてまとめ、益田市議会12月定例会で報告いたしました。

この報告書は、益田市のホームページでも公開しており、この結果を今後の方針や施策に反映させていきたいと考えています。

益田市奨学金貸付審議会を開催しました

平成28年度奨学生の選考について、山本市長が益田市奨学金貸付審議会に対して諮問し、2月1日、同審議会において十分な審議が重ねられ、2月5日、尾庭昌喜会長から市長に対して答申されました。その答申に基づいて7名の奨学生を決定しました。



「未来を担うひとづくりフォーラム」開催！

益田の美しい自然を満喫しませんか

2月6日(土)、益田市総合福祉センターにおいて、未来を担うひとづくりフォーラムを行いました。このフォーラムは、子どもの育ちにかかわるすべての大人が、未来を担うひとづくりについて学び、行動する機会とするために開催しました。市内外から、約250名の自ら学びたい大人が集まり、会場は熱気に包まれました。

島根県教育魅力化特命官の岩本悠さんからは、「今の先に未来がひらく」「人は人によって人となる」「北極星をめざすより、自分のコンパスを持つことが大切」など、これから益田市がめざす「ライフキャリア教育」の方向性を示していただきました。

参加者からは、「大変有意義な時間だった。今回のフォーラムで何度もキーワー

ドとして『ひと』という言葉が出てきた。このことで人があたたかい益田市のよさを実感することができた」「益田の若者に未来を感じる事ができた。これから自分のできることを一つずつやっていきたい」「子どもたちの環境を変えることで、未来が変わるといってお話は本当にそうだと思う。子どもの環境を変えるためにも、まずは大人が自分の環境を変えねばならないと思う」などの感想をいただきました。

参加者の皆さんがこのフォーラムで得たことを、それぞれの地域で生かしていくことができるようにしっかりと応援していきたいと思えます。「ひとづくりのまち益田」、はじめの一步です！

○唐音の蛇岩からおと じやがん

益田市鎌手地区の唐音海岸の一角は、波によって浅い海底面が平らに浸食され、それが隆起して陸地になった台地(隆起海蝕台地)です。その中を、幅約1mの黒褐色の岩脈が、何度も伸びています。その様相が、まるで蛇がくねっているように見えるため「唐音の蛇岩」という名がつけました。このような岩石の状態が



学術上貴重なものと認められ、昭和11(1936)年に国の天然記念物に指定されました。

この美しい景観は、地元鎌手地区の唐音の蛇岩保存会によって守られていいます。保存会の皆さんにより、月に8〜10日程度、見廻りや清掃作業が行われていきます。

○唐音水仙公園

唐音の蛇岩を見下ろす丘陵地は、唐音水仙公園として整備されており、日本海を背景に200万球を超えるニホンズイセン(日本水仙)を見ることが出来ます。

平成元(1989)年に鎌手地区すいせんの花咲く里づくり推進協議会が創設され、毎年10アール(1000㎡)を目標に木を切り、草を刈り、球根を植えるという活動を続けてこられました。



こうした取組により、水仙は平成17(2005)年に「益田市の花」に制定されました。

唐音海岸の景観は、このような地元の方々地道な取組によって維持されています。

水仙は、毎年1〜2月に見頃を迎えます。唐音の蛇岩とともに、益田の美しい自然を是非感じてみてください。

歴史と共に育んできた味 ～益田ならではの献立～

給食のはじまりをイメージ

1月24日から30日までの期間は全国学校給食週間に位置づけられ、「学校給食の意義、役割等について、児童生徒や教職員、保護者、地域住民等の理解と関心を高め、学校給食のより一層の充実発展を図ること」とされています。今年折からの積雪により給食提供日の変更を余儀なくされましたが、児童生徒に学校給食に関わる人や歴史について考えてもらえるよう配慮して取り組みました。

学校給食のはじまりは山形県鶴岡町（当時）で、「おにぎり」「焼き魚」「漬物」によって実施されたと言われています。その3種類の食材を基本にして、学校給食のはじまりをイメージしてもらえよう。な献立を作成したほか、「ぎゅーっときんぴら」「切り干し大根のツナ和え」など、学校給食週間を通じて益田市の独自色を前面に出した献立を提供

しました。児童生徒にとっては少々好みが分かれる献立と言えますが、それらが長きに渡って愛され続けてきたことから、益田市の学校給食ならではの味、風味、食感にこだわった献立を並べました。学校給食として提供する「きんぴら」などの献立にはたくさんの具を入れていますが、一般的に家庭で作られるものとの違いも感じられるよう気遣っており、地産地消、栄養面などの点を通じて全国学校給食週間の意義を伝えられるよう工夫しています。

また1月発行の「給食だより」では実際に調理に携わる職員の学校給食の思い出を綴り、益田市の学校給食47年間の歴史を振り返る内容を加えました。

愛され続ける給食を

学校給食は多くの人が携わり、その役割をそれぞれが全うしてはじめて児童生徒に届けられるものです。決して一

★2月1日の献立

セルフおにぎり、さんかくのり大根の梅和え、鮭の塩焼き
白菜と豆腐の味噌汁、牛乳



献立作成：濱野 美紀

朝一夕で成り立ったものではなく、長い年月の積み重ねの中で今のようになかたちに移行してきました。これまでの歴史を省みて、これまで以上に児童生徒のことを考えて取り組まなければならない、と改めて感じています。

長い歴史の重みを感じながら、児童生徒に「愛され続ける給食」を届けていきます。

寄付・寄贈のお礼

益田市奨学金へ寄付

- ・市内 匿名 様
- ・幸町 桂木 智佐世 様
- ・年忘れ益田市民余芸大会事務局 様
- ・島根県合唱連盟益田支部 様
- ・栄町 故 真庭 浩 様

市内図書館に道川地区昔話集CDを寄贈

- ・島根県立大学短期大学部 学長 本田 雄一 様

中世文書購入費の寄付

- ・日本遺産を目指す益田市民会議 様

この寄付金は、益田市が貴重な古文書を購入できるよう、同会議が呼びかけ、1381人から1千円ずつ寄付していただいたものです。



日本遺産を目指す益田市民会議 様